



Vol.124
2026.1



前進も登いもお手のもの

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

登いも巧みな“クモガタガガンボ”

それ程雪の多くない年明けとなりましたが、その後の絶え間ない降雪であっという間に170cm以上のたっぷりの雪に覆われた森の中でクモガタガガンボに出会いました。ひたすら雪が降り続き、いきものの気配がほとんど感じられずスノーシューで歩く音は雪に吸い込まれてしまうような静寂の中、足元にクモガタガガンボが歩いていました。長い脚を3本ずつ規則正しく軽やかに動かし、雪の上とは思えないほどのスピードで前進。一見雪の上は平らに見えても、彼らからすればオフロードのようで歩きやすい場所ではないはずですが、体の位置があまりブレないところを見ると翅を持つ他のガガンボよりもしっかりとした脚が、凹凸のある雪上からの衝撃を吸収しているのでしょうか。落差20cm程の足跡に落下するも、垂直で複雑な雪壁をそれまでと変わらない調子で難なく登り、何事もなかったように再び歩き始めました。すぐ近くを別の2匹がそれぞれに歩いていましたが、なぜか3匹は申し合わせたように東の方角に向かっていました。迷いなくひたすら進む後ろ姿から「思い煩うことなく前進せよ」と言われているようで新年早々に活を入れてもらった出会いとなりました。

What is
“Kumogatagaganbo”?

『クモに似た翅のない
ガガンボ』

ヒメガガンボ科
体長：約5～8mm
分布：本州

低地から高山地帯の林・草原・岩場などの雪上、洞窟内や哺乳類の巢内など多様な環境で見つかっている。体温喪失を避けるために翅は退化したと言われるが平均棍は残っている。

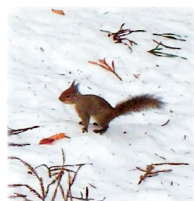
(参考図書：「ハエハンドブック」) 他

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の
い ろ い ろ
- Point of view -

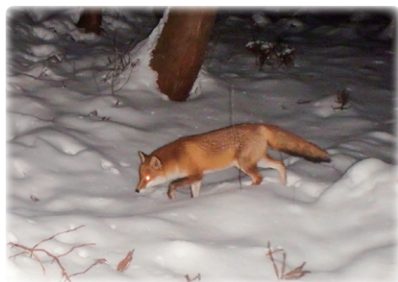
📷 No. 11

深い雪の季節、冬眠せずに生き抜く道を選んだ動物たち



ホンドリリス
20251224 撮影

スノーシューで網張の森を歩いていると、雪上に動物たちの足跡を見かけることがあります。「これはキツネ？それともテン？」と正体を想像するのは、冬ならではの楽しみです。今回は撮影の難しい厳冬期に、幸運にも記録された画像についてご紹介します。



ホンドリリス 20221205 撮影

雪上で活動が続ける動物たちに共通しているのは、食料を確保してエネルギーを得ながら、体温を一定に保ち続けることです。大きく分けると、①秋のうちに蓄えておいた木の実などを掘り出して食べるリスやネズミ、②雪の上に出ている広葉樹の冬芽やササなどを食べるウサギやカモシカ、③小型哺乳類や野鳥を捕食するキツネやテンの3つのタイプに分類できます。

それぞれの動物は、雪上でも活動できるよう独自の適応を遂げており、その方法は実に多様です。



トウホクノウサギ
20180122 撮影



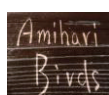
ニホンカモシカ
20250203 撮影

私たちは雪原を移動する際、スキーや輪かんじきといった道具を使いますが、キツネやウサギ、テンは冬毛が足の裏や指の間に密生し生える事で、雪上を歩くサポートとなります。特にウサギやテンでは、足の指を大きく広げて浮力を得た足跡を見かけることがあります。リスは体が軽く、巧みに樹上を移動することもしばしばです。一方、体重のあるカモシカは豊かな体力を生かして雪をラッセルしながら、我が道を行きます。この冬は、網張の森で彼らの足跡を探してみたいはいかがでしょうか？



ホンドリリス
20230107 撮影

参考図書：今泉 忠明『アニマルトラック』 小宮 輝之『哺乳類の足型足跡ハンドブック』



アミハリ・バーズ
Vol. 6 7



キーキッキッキ...

ハイタカ

科名：タカ科
全長：雄 約 32cm
雌 約 39cm
生態：留鳥
(四国以南では冬鳥)
分布：全国

「疾き鷹」「はしたか」を語源とし、オオタカと並んで古くから鷹狩に用いられてきました。雌は雄よりも体が大きく力も強いので、鷹狩では特に雌が重宝されたそうです。万葉集では大伴家持が鷹狩の歌を多く残しており、ウサギやカモを捕りに野山へよく出かけていたようです。

オオタカやチュウヒなどタカ類全般は、生息環境の変化によって減少傾向にある中で、ハイタカは一定数を維持していると考えられます。食物連鎖の頂点に立つ猛禽類の減少は、生物多様性の均衡が揺らぎ始めていることを示す警鐘ともいえるでしょう。

参考図書：山下 景子『万葉の鳥』



撮影日：2007年2月26日

ベスト写真で綴る！

「岩手山カレンダー」撮影エピソード（5）

－中山大太郎さん22年の軌跡－

2月「静寂の山頂」（お鉢にて）

撮影日：2017年2月28日



この写真の撮影日のことは、強烈に印象に残っています。焼走りから直登し、左回りでお鉢に出た所で「冬山が初めて」と言う若者に出会いました。少し立ち話をし、八合目避難小屋経由で下る彼とはそこで別れました。風も無く暖かい昼過ぎ、風紋と踏み跡のない雪面と真っ青な空での撮影。独り占めだと思いつつ、もったいないとも感じました。お鉢には14時40分頃まで滞在しました。今から下ると到着は17時頃です。日中の天気が良かったので、解けた雪が既に凍り始めていました。15時を過ぎると一気にガッチリ凍ることが予想されます。その時履いていたアイゼンは、何度も研いで爪が短くなっています。車は焼走り口に駐車していましたが、これから変化するであろう氷の状態を考慮すると焼走りの下山は無理だと思い、馬返しへ下りることにしました。6合目辺りで先程の若者に再会しました。「撮影しながら

ゆっくり下るので先へ行ってください」と告げ、暗くなったらヘッドランプを使えばよいと思いながら下って行きました。馬返しの登山口を過ぎて下って行くと、自衛隊の中口に来ていたパトカーの赤色灯が見えました。警察官に何があったのか尋ねると、「先程下山した若者のお父さんが、息子が17時になっても帰ってこないで110番通報をした。若者は無事に下山したが彼が『まだ年寄りみたいな人が1人いますよ』と言うので帰られなくなり待っていた」とのことでした。その後入山届や登山経験などを聞かれました。岩手山で何か事故が起きるたびに思い出すコマです。事故のニュースを耳にすることもあります。若い人たちは経験不足なのか、「体力＝技術」と思っているのかは分かりませんが、少し立ち止まって冷静に判断すべきだと思うのです。また山岳会などに所属し学ぶ機会が得られるといいとも思います。

3月「春の温もり」（お鉢への途中から）

撮影日：2016年3月27日

この写真は、岩手山登山510回目の日の撮影です。6時30分に馬返しを出発。3合目でアイゼンを装着し、4合目でカメラを取り出し撮影しながら登りました。10時30分に八合目避難小屋に到着し、昼食を取って11時に避難小屋を出発。お鉢に直登し奥宮に寄って反時計回りで頂上に到着。Y字分岐から下り、9合目の不動平避難小屋へ行く途中で、下りながらこの写真を撮影しました。この時期にしては天気も良く、春を感じるような穏やかな日でした。その後、御神坂分岐から鬼ヶ城の尾根の南端の稜線伝いに八合目避難小屋へ向かいました。この稜線は積雪期しか歩けないルートです。普段は見ることでできない珍しい景色を撮影しながら歩きました。雫石側の南面はすっかり雪が解け、一面にササが出ていました。もう少し経てばこのルートも一面のササ藪になるのだと、季節の移ろいに思いを巡らせました。気温はマイナス1.5度。八合目避難小屋でコーヒーを飲んで下山しました。

山を歩く時、向こうから見たらどんな景色だろう、もっと素晴らしい景色かもしれないなどという思いで歩いています。雪山は自由度が高いのですが危険度も増します。春は踏み抜きが怖く、雪庇を踏み抜いて腰の辺りまで落ちたことがあり、這い上がるのに苦戦したこともあります。落ちた空洞の足元に水が流れていて怖い思いをしたこともありました。1枚の写真から登山の様々なシーンが思い起こされます。

タイトル左の写真（2007年2月26日撮影）は、走った記憶が蘇ります。八幡平スキー場があった頃、山仲間5人とスキーに出かけました。指導標1番の大黒森を出発し茶臼岳への途中、自分の年齢と同じ番号で写真を撮ったりしていました。雪に埋もれて自分の番号を見つけることのできない人もいましたが、当時68歳の私は68番で撮影し、景色や樹氷を楽しみながら登っていました。茶臼山荘の手前で、岩手山に透き通った雲がかかっているのが見えました。撮影ポイントはもう少し先です。雲が消える前にとスキーで必死に走りました。撮影ポイントに着いた時、雲は最初に見た時より濃くなっていたのですが、何とかギリギリ間に合いました。雲から透けて岩手山の裾野まで見えるこの写真は、全く偶然の出会いでした。



1/12 「この時期しか歩けない!」 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク」



1月の3連休は例年にないほどの大雪となり、天候や積雪などを考慮し、鞍掛山西麓から砂防ダムを經由し、少し登った所から登山道を下るコースを歩きました。前半は滝沢市山協スタッフのラッセル跡を辿りましたが、終盤は自由に歩き、膝くらいまでのふかふか雪の感触を楽しみました。「とにかく楽しかった」「自分達だけではこのルートは歩けない」参加者感想より。総勢16名

12/21 「冬の網張の森でクリスマス気分★」 (スノーシューハイキング)

12月は降雪日が多く積雪は十分でしたが、当日は10年に一度の高温となり、雨の為残念ながら中止となりました。

12/11 岩手大学人文社会科学部学生調査訪問

雫石町の自然を生かしたスポーツツーリズムをテーマに調査している学生たちが網張のアウトドアツーリズムの実態や自然の魅力、楽しみ方を学びました。

好評です! 「森の材料で作る手作り体験」



冬のミニ企画はクリスマスリースやオーナメントなど手作り行事が恒例です。森の自然素材を使い工夫を凝らした素敵な作品ができました。しずくしい観光協会スタッフが取材を兼ねて「リース作り」に参加し、行事の様子やビジターセンター館内の様子などを撮影し動画を編集。観光協会のHPに掲載されました。

「網張の森雪上ハイキング」 毎週土日開催 1月より毎週実施しています!



一面真っ白な雪で覆われた網張の森をスノーシューを履いて1時間ほど歩きます。動物の足跡探しやバードウォッチング、木々の冬芽の観察など、この時期ならではの出会いも楽しめます。誰も歩いていない雪に自分の足跡を付けて自由に歩けることも醍醐味の1つ。「静かな森で雪の降る音を初めて聞いた」という感想も聞かれました。

インフォメーション

1/10(土)~3/29(日) 毎週土日開催(※行事日を除く)
「網張の森雪上ハイキング」

10:00~11:00 参加料: 一人400円

2/7(土) 『網張の森でイグルーを作ろう!』

10:00~12:00 参加料: 大人800円 小学生400円

2/11(水・祝)、3/20(金・祝) 『モモンガ調査体験』

10:00~12:00 参加料: 一人500円

3/8(日) 『網張の森大木巡り』 (スノーシューハイキング)

10:00~13:30 参加料: 大人800円 小学生400円

4/5(日) 『根開きのブナの森で春を探そう』
(スノーシューハイキング)

9:30~13:30 参加料: 大人800円 小学生以下400円

*各行事「網張ビジターセンター集合」、「要事前予約」
定員及びスノーシューレンタル等はHPをご覧ください。

冬季特別企画 1/14~3/9 「ようこそ! 冬の網張の森へ」

網張に生息する動物の写真や生態、動物たちの衣替えや木々の冬芽など厳しい冬を過ごすための生きものの工夫、動物の足跡や冬に見られる野鳥のクイズなど、網張の森の冬の魅力を紹介します。ぜひご覧ください。



ー現在開催中のビジターセンター企画展ー 1月4日(日)~2月28日(土)

「センサーカメラは見た!」 森の生きものたち in Amihari

網張ビジターセンターでは、10数年にわたって網張の森にセンサーカメラを設置し、生きものの様子を記録してきました。その中から厳選した29点を紹介しています。季節ごとに表情を変える網張の森で出会った、多様な生きものの姿をお楽しみ下さい。十和田八幡平国立公園に広がる網張の森が持つ豊かな自然を、本展示を通して身近に感じ取っていただけたら幸いです。



コテングコウモリ



ニホンカモシカ

「網張の森、冬の“おすすめ”散策マップ」が 新しくなりました!



*マップはHPからもご覧いただけます。

デザインをスッキリと刷新。案内板の写真や、工事が行われている作業道など今シーズン変化した内容も追加し、より利用しやすくなりました。

網張温泉スキー場 スキーセンターに 「網張ビジターセンター コーナー」を開設!

スキー目的で網張を訪れた方々にビジターセンターを知っていただけるよう、企画展や行事をはじめ、スノーシューでの雪上散策など冬の森の楽しみ方も併せてご紹介しています。

モモンガのつぶやき

オオカメノキは1年を通して自然観会で話題を提供してくれます。春先の葉が開き始める頃はバルタン星人のような愛らしい若葉。花は可憐で、咲き始めの時期はほんのりバニラの香り。夏には既に葉脈がはっきり見える冬芽を付け、赤い実も鮮やかです。秋にはその名の通り大きな亀のような葉が見事に紅葉し森を彩ります。雪が降り雪上ハイキングが始まると、ウサギのような冬芽が話題に上がります。昨シーズンは積雪が多くオオカメノキの冬芽は雪の下に隠れてしまいましたが、今シーズンはどうでしょうか。因みに、1月中旬はまだ見えています。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 766人 ◆ 12月 550人

朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 0.3℃ ◆ 12月 -5.2℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館